

# スマート技術普及へ

## 農政局など フォーラム ハウス自動換気を紹介

中国四国農政局と農研機構西日本農業研究センターは13日、スマート農業推進フォーラムをオンラインで開いた。島根県出雲市の大社観光ぶどう園などで実証した、ブドウの施設栽培のハウス内環境モニタリングシステムと連動した自動換気などを紹介。環境負荷の低減や労力削減などにつながる先進技術を共有し、農業現場での普及や持続可能な生産体系の構築を狙う。

出雲市農業振興課が、同農園などで2020、21年度に行ったブドウ栽培でのハウス環境制御技術の実証試験について発表。モニタリングシステムなど

を導入することで、ハウスの開閉作業に必要な労力の削減や、生育ステージの正確な把握につなげた成果を報告した。

また同市は環境負荷の低減も目指し、重油加温機とヒートポンプを組み合わせた加温技術の試験も本年度から実施。同課は「環境に優しい取り組みで産地をPRしたい」と意気

込む。

農研機構スマート農業事業推進室は、農水省などのスマート農業実証プロジェクトにつ

いて現状を報告。山口県の中山間地域で取り組む乗用型水田除草機などを用いた雑草防除を紹介した。

同フォーラムにはJAや農業関係者など約160人が参加。同農政局の山本徹弥局長は「スマート農業技術を地域の課題解決の一助にしてもらいたい」と話した。